

総務企画常任委員会

委員長／藤田 尚美 副委員長／遠藤 憲子

委員／黒木 のぶ子・石原 幸雄・市川 圭一・諸橋 太一郎・北島 登

防災無線のデジタル化

令和7年
アナログ → デジタル化へ

Q1. どうしてアナログからデジタルに移行になるの？

A. アナログ放送ができなくなると総務省より去年の11月が期限という通達が牛久市にありました。

また、設置後30年が経過して老朽化しており、市民からは聞こえにくいとの声があったためです。

Q2. デジタル化に要する予算は？

A. 5年間で5億1,590万円です。

Q3. デジタル化整備によるメリットは？

A. まずは、市民への確実な情報伝達を目的とし、災害情報の一斉配信機能となります。市としては、その他に電話・FAX・かっぱメール・ホームページ・SNS・FMUUなどを伝達手段としており、今後は防災アプリ等も活用予定であります。



ふるさと納税

ふるさと納税（ふるさと応援寄附）とは、何でしょうか？

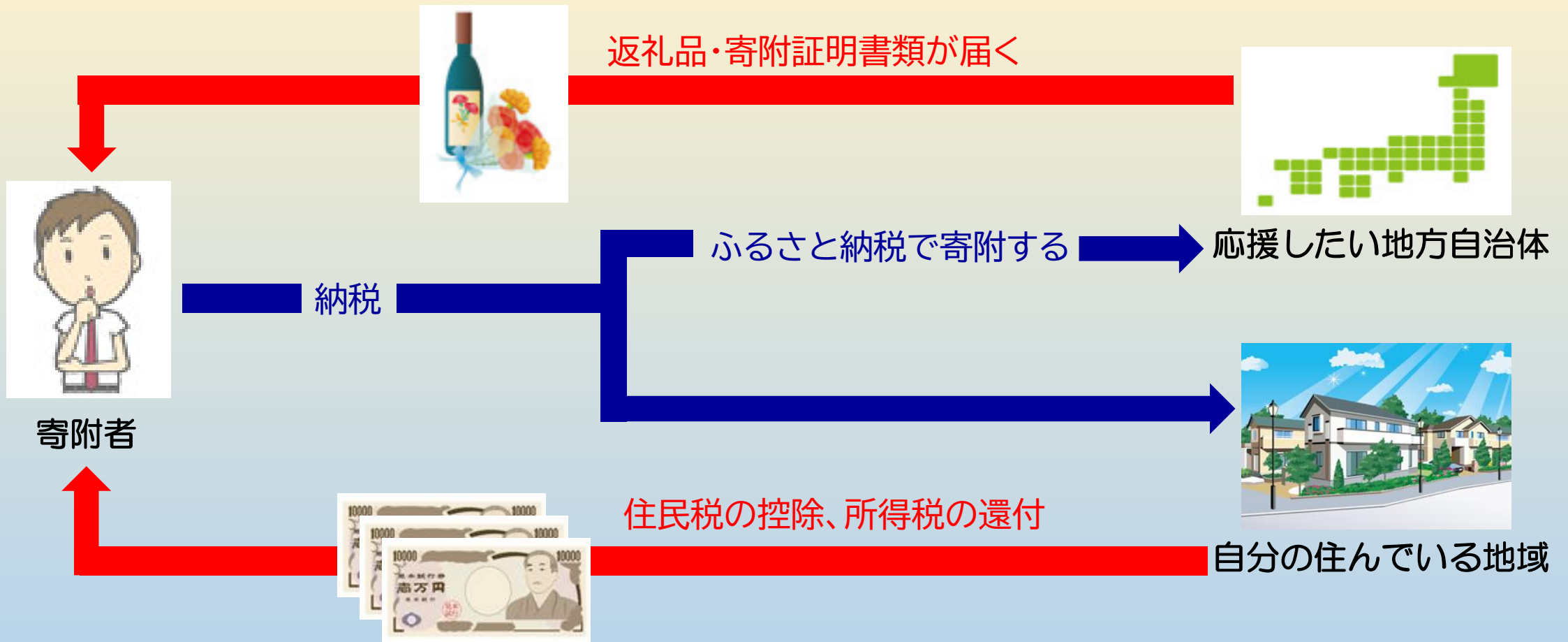


1. 全国の応援したい地域に寄附ができる仕組みのことです。
2. 寄附金の使い道は、子どもたちの教育環境、福祉の充実や生活環境、産業の振興などに使ってほしいと指定することで、その地域に貢献することができます。
3. 寄附金に応じた地域の特産品が返礼品としてもらえ、そのほか、税の控除が受けられます。

ふるさと納税（ふるさと応援寄附）の仕組み

ふるさと納税制度を利用して寄附を行うことで、自治体から「返礼品」と寄附証明書類「寄附金受領証明書」が届きます。

手続きをすると、寄附金のうち、2,000円を超える部分について、所得税の還付、住民税の控除を受けられる仕組みです。



しかし、自治体にとっては課題があります。例えば牛久市民が牛久市以外の自治体に寄附をすると、確定申告の所得税を計算するとき2,000円を超える分が寄附控除の対象となり、その結果、牛久市の税収が減ってしまうことにつながります。

ふるさと牛久応援寄附の過去3年間の推移（令和元年度～令和3年度）

（単位：円）

	区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入	寄附件数	4,222件	4,247件	8,605件
	寄附受入額（a）	55,920,000	63,087,000	123,797,000
支出	返礼品の調達及び送付に係る費用	22,212,853	21,334,665	41,455,996
	事務及び決済等に係る費用	7,307,343	7,846,815	17,344,271
	支出合計（b）	29,520,196	29,181,480	58,800,267
市民が他自治体へ寄附したことによる市民税控除額（c）		118,589,082 （対象期間H31.1.1～R1.12.31）	160,075,342 （対象期間R2.1.1～R2.12.31）	196,158,490 （対象期間R3.1.1～R3.12.31）
差引（a）－（b）－（c）		▲92,189,278	▲126,169,822	▲131,161,757

令和3年度ふるさと牛久応援寄附の活用状況

寄附受入金額		
使い道の指定	件数	寄付金額（円）
(1) 新型コロナウイルス感染症対策に関する事業	811	11,719,000
(2) 健康づくり及び福祉に関する事業	706	10,232,000
(3) 環境の保全に関する事業	471	6,626,000
(4) 生活安全に関する事業	244	3,619,000
(5) 産業の振興に関する事業	297	4,396,000
(6) 都市基盤整備に関する事業	110	1,878,000
(7) 教育及び文化芸術に関する事業	670	12,268,000
(8) その他市長が定める事業	5,296	73,059,000
合 計	8,605	123,797,000

活用状況	
充当事業	充当金額（円）
コンビニ交付を実施する(578千円) 小学校のICT環境を管理する(5,705千円) 中学校のICT環境を管理する(4,903千円) コミュニティFMにより情報を発信する(予防接種情報)(268千円)	11,454,000
予防接種(おたふく風邪・ロタウイルス)	9,845,000
環境基本計画を策定する(2,571千円) 環境美化を進めて不法投棄を防止する(不法投棄監視活動)(2,464千円) 河川の水質を監視して調査分析する(1,430千円)	6,465,000
防犯カメラを設置する(1,132千円) 自主防災組織を育成する(2,370千円)	3,502,000
農業や漁業団体等の活動を支援する(青果物等出荷梱包箱補助)	4,283,000
駅周辺環境を適正に管理する(牛久駅西口歩道橋改修工事、維持補修工事)	1,838,000
おくの義務教育学校一体型校舎を建設する(6,283千円) 文化財を保護継承して活用する(5,608千円)	11,891,000
予防接種を実施する(インフルエンザ)(4,302千円) スクールアシスタントを派遣する(14,282千円) 住井すゑ記念館を公開活用する(2,304千円) コミュニティバスの運行を管理する(19,778千円) デマンド型公共交通サービスを実施する(10,420千円) 牛久運動公園の運動施設を運営する(16,393千円)	67,479,000
合 計	116,757,000

※寄付金額123,797,000円と、活用額116,757,000円の差額、7,040,000円については、翌年度以降の事業に活用させていただきます。

今後の課題は

1. 魅力的な返礼品を揃える。
牛久市の魅力を大いに宣伝する場でもある。
2. 安易に牛久市民が他の自治体へ寄附すると、税収減となることを意識してほしい。
牛久市民は自分の市に寄附をしても、返礼の対象とはならないことも伝える。
3. ふるさと納税を活用して進めている市の計画もあり、寄附により市民サービスの向上にどう役に立っているか、寄附をした方には返していくことも必要ではないか。